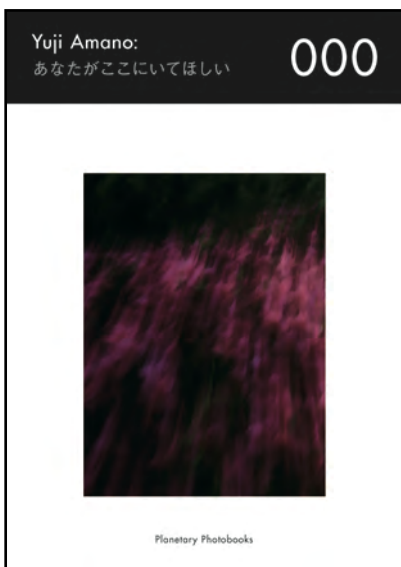


『Planetary Photobooks』 作品一覧



NO. 000 天野裕氏 『あなたがここにいてほしい』

2010年塩竈フォトフェスティバルグランプリ受賞作家による最新作。

「夜から夜
チョコレート、あゆ、刺青、ふき、カフェオーレ
シーツからシーツ
渚、つつじ、ラメルージュ、刃、チワワ、龍が如く
儂さ、瞬き、神様、光」

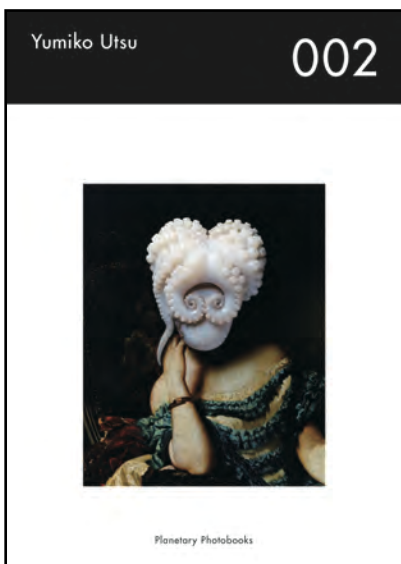
天野裕氏
福岡県大牟田市生。



NO. 001 小山泰介 『Physical Forest』

本作品は2011年にシンガポールで開催されたプロジェクト「INSITU Fort Canning Hill」で制作し、映像作品「Physical Forest / Feed Back」も発表した。同プロジェクトでは出身国もジャンルも異なる4人の作家がシンガポールの歴史が刻まれた丘をテーマに滞在制作し、Singapore Art Festival 2011で展示とライブパフォーマンスをおこなった。

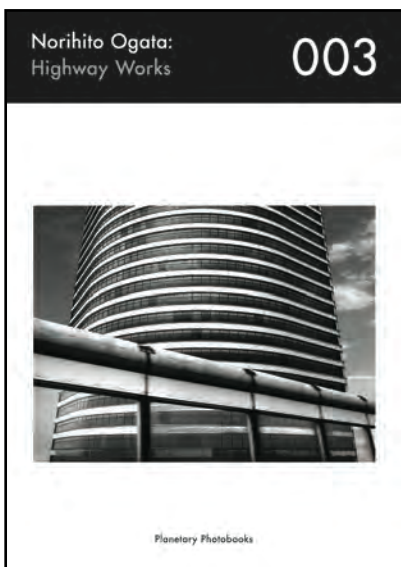
小山泰介
1978年東京生。刻々と変化していく都市を生物や自然と同じような有機体としてとらえ、都市の新陳代謝のような人工物の表面や状態、現象の細部を撮影し、有機的で抽象度の高い作品を制作している。



NO. 002 うつゆみこ 『(タイトル未定)』

うつゆみこ
1978年東京生。2006年「ひとつぼ展」グランプリ受賞。アジアを始めヨーロッパでも個展・グループ展に参加。海外メディアからも絶賛を浴びる。2009年、初の写真集『はこぶねのそと』を出版。

『Planetary Photobooks』 作品一覧



NO. 003 緒方範人 『Highway Works』

Googleストリートビューや画像検索を用いてインターネット上で閲覧可能な画像から架空の都市空間を構築し、その膨大なデータから1枚の銀塩写真プリントを生み出すという現代の「建築写真」を制作する緒方範人。Highway Worksは高速道路を走行中に連続記録された画像を元に、デジタルマニピュレーションにより再構築された写真作品群である。

緒方範人

1975年東京生。ネット上で閲覧可能な多数の画像から写真の上に架空の都市空間を構築し、「完全な建築」を追求すると共に、増殖した都市空間と其中で生きる我々の知覚を実現させているものとは、を問う。



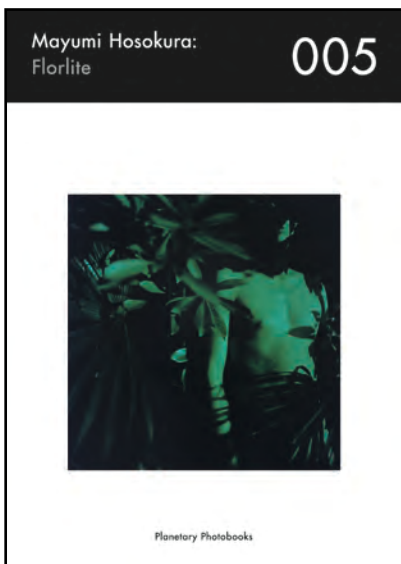
NO. 004 頭山ゆう紀 + 河合泰児 『osorezan』

恐山へ行くこと、それは特別なことです。恐山は日本の東北地方の最北端にある特別な場所、死者の霊と再会する場所です。祭になるとイタコとよばれる、死者の声を呼び起こし、自らの肉体をメディウムとして再生させるシャーマンたちが集まります。日本はハイテク情報社会に見え、一方で原始の力が生々しくある国なのです。この作品は、写真家と文章家が連れ添い、祭のない、霊の不在の季節に、霊地を訪れる<反>旅の記述です。二人が感じ、見たものは一体なんであったのでしょうか？

頭山ゆう紀

1983年千葉生。写真集に『境界線13』（赤々舎）、『さすらい』（アートビートパブリッシャーズ）。

河合泰児 1983年生まれ



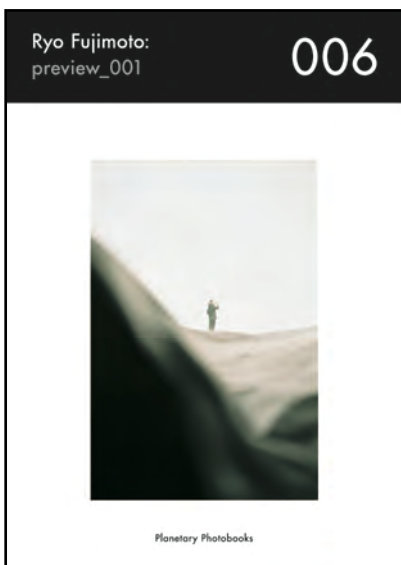
NO. 005 細倉真弓 『Florlite』

繊細な自然観と、若者の独特の親密さと美しさを捉えた一連の写真作品で世界から注目を浴びる写真家・細倉真弓による、ある1人の青年を撮影したシリーズ「Florlite」。

細倉真弓

1979年京都生。今を生きる若者の日常を繊細で力強い感受性で描き出し、その自然の描写と独特なエロスは独自のカラーとして高い評価を得る。12/2より個展『KAZAN』をG/P galleyにて開催のほか、初の写真集を発売予定。

『Planetary Photobooks』 作品一覧



NO. 006 藤本涼 『preview_001』

作家・藤本涼は、記憶の中を訪れるような幻想的かつ力強い作品の構成力とその独自の世界観で第5回shiseido art eggに入選するなど大きな評価を得る。初の作品集となる本作では初期の3シリーズのプレビューをまとめた。

藤本涼

1984年東京生。2010年東京藝術大学大学院卒。2011年度に「第5回shiseido art egg」に入選し、資生堂ギャラリーにて個展「かすみを食べて幻視する」を開催。国内外で多くのコレクターやキュレーターの注目を集めている。



NO. 007 栗山齊 『Trace of Light』

Frieze Art Fair、2011年ヴェネツィア・ビエンナーレなど国内外で注目を浴びる現代アーティスト、栗山齊による、写真メディアを使用した作品「Trace of Light」を収録した一冊。

栗山齊

1979年兵庫県生。筑波大学大学院、東京芸術大学大学院博士課程修了。我々の生活を構成する光や電気といったエレメントを用いたインスタレーション作品は、ある瞬間の一つの事象を可視化して我々の眼前にさらしだすとともに、その美しさで圧倒する。



NO. 008 長浜徹 『Spooks /お化け』

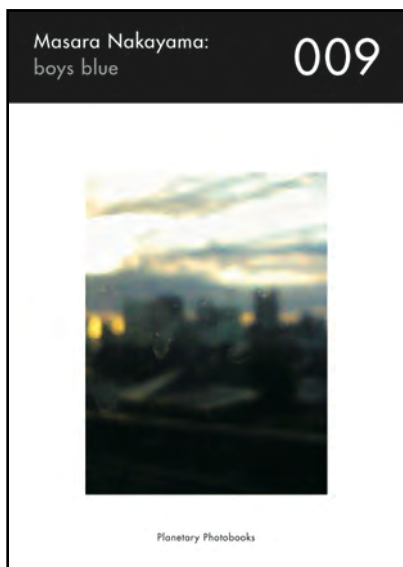
ロンドンでデザイナー／アーティストとして活躍する長浜徹による「お化け」をテーマにしたコンセプト・ブック。

「それはある夜のことでした、繁華街を歩いていたらなんだか不思議な形をした煙が僕たちの頭上にあってすぐに風に乗って消えていきました。それは多分トルコ料理屋さんから出てきた炭火焼の煙だったと思います。でもお化けというものに僕はいつも興味を引かれます。それはお化けは僕たちが何とも表現しがたいものを視覚的に具現化したものだからです。それは写真というものの魅力にも通じているのだと思います。」

長浜徹

1980年東京生。ロンドン在住。Royal College of Art卒業後、デザイナーとして働きながら、個人プロジェクトとして写真で活動。写真をベースに、本、プリント、インスタレーションと色々な形式で作品を制作。

『Planetary Photobooks』 作品一覧



NO. 009 中山正羅 『KYOTO』

虚飾や欺瞞に満ちた、即ち、表層やハイブとは対極に存在する、
美しさ、真理、愛、慈み、若さ、健全。

それらは、全て小さいものに宿るのではないだろうか。

この写真集を作るお話を頂いた時、

5年ほど前に撮りためていた作品「KYOTO」を出そうと思いました。

それは、出来るだけ小さい版型である必要があったし、誰でも簡単に手に入れられる(値段や販売ルート)ことが重要でした。

これは、僕の原点であり、物事の本質は、往々にして、失われやすいという戒めでもある。

中山正羅

2008年第30回「ひとつぼ展」入選。主なグループ展に「THE EXPOSED」(2008, 2009, 2010)「Various Photographs」(2008, NY)など。2009年写真集『FANCY PEOPLE PHOTO BOOK』(アートビートパブリッシャーズ)刊行。

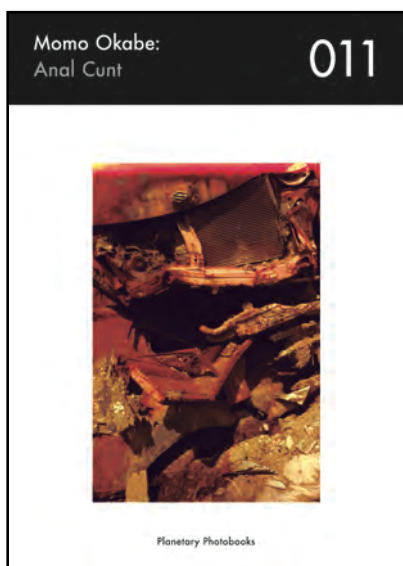


NO. 010 赤石隆明 『Waste Park』

本作『Waste Park』は、注目の写真家・赤石隆明による、展覧会『Echo Park』『Wasted Labor』の一連のドキュメンタリー写真で構成されている。

赤石隆明

1985年静岡生。額装された写真やプリントを空間に配置するインスタレーション作品を発表してきた赤石は、日常に溢れるイメージとイメージの中の風景を組み合わせるなど、見る者の感覚を揺さぶるような作品を制作。



NO. 011 岡部桃 『Anal Cunt』

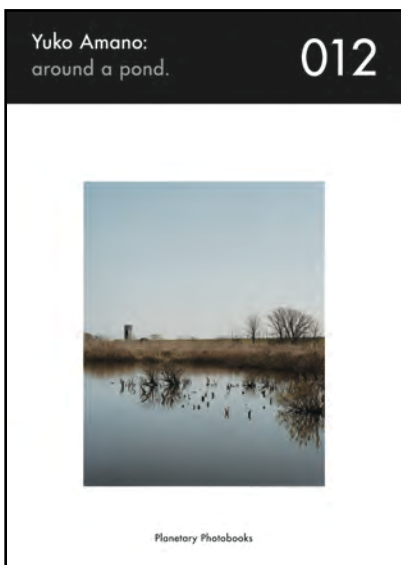
写真新世紀などで注目される女性作家、岡部桃。今回は2011年に撮影された新作を織り交ぜた作品集となる。

「去る9月21日、東京に台風上陸。私は品川駅前のビッグエコーで夜を明かした。台風一過の翌朝5時、天王洲アイルでおにぎりを食べていた。カモメが次々と太陽の中へ飛んでゆく。太陽の向うに海が見える。私の血が乾いた。」

岡部桃

1981年東京生。日本大学芸術学部卒業。受賞歴に、「写真新世紀優秀賞受賞」(荒木経惟選)、第19回「ひとつぼ展」入選、「エプソンカラーイメージングコンテスト」特選など。

『Planetary Photobooks』 作品一覧



NO. 012 天野祐子 『Around a pond』

日常の中から独特の視点で詩的で力強いイメージを捉える天野祐子による写真集。

沼はいつから沼なのか。

本当はきっと、遊水池か何かだろう。

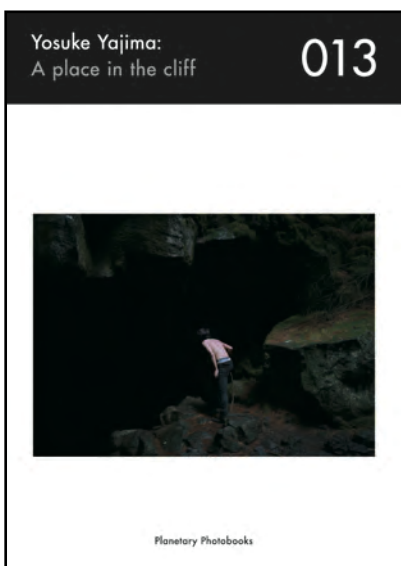
おそらく、私が沼だと思った時に、そうなったのだ。

人間はどうして名付けるのだろう。

まるで知らない記憶とでも言うかのようだ。

天野祐子

1985年生。武蔵野美術大学大学院デザイン専攻写真コース修了。第3回写真「1_WALL」入選。主な展示に、「THE PHOTO/BOOKS HUB」、「ヨコハマ・フォトマーケット」、「PH4+Photo Exhibition」、第3回写真「1_WALL」展、個展「KIN」など。

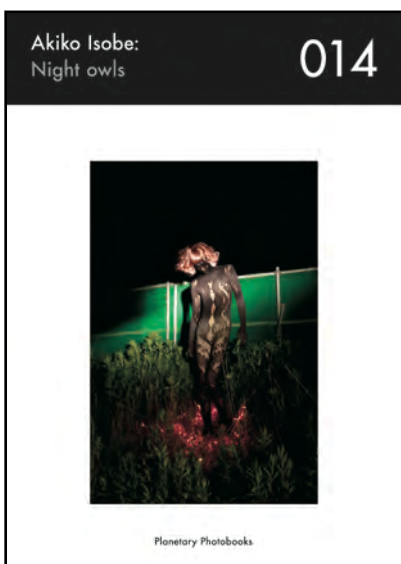


NO. 013 矢島陽介 『A Place in the cliff』

2008年以降、現在まで継続して制作しているシリーズ。鑑賞者から立ち上がる想像を興味の対象とし、作家自身が思い浮かべた断片的なイメージを写真に収めている。

矢島陽介

1981年生。個展「A place in the cliff」（2011, TAPギャラリー）、グループ展「THE EXPOSED #6」（2011, 表参道ヒルズ）、「ヨコハマフォトマーケット」（2011, ヨコハマ創造都市センター）など。



NO. 014 磯部昭子 『Night Owls』

ファッション写真等でも活躍する磯部昭子による意欲作『Night Owls』

「夜に導かれた明かりは物事の陰影を少し誇張しながら浮き彫りにして、昼間見たそれとは違う魅力を漂わせている。人は見えない部分への想像を大胆に膨らませて各々の世界に閉じこもり暗闇から身を守っている様だ。」

磯部昭子

1977年生。武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業。在学中より写真作品を多数発表し、「フィリップモリスアートアワード」入選をはじめ、「エプソンカラーイメージングコンテスト」伊藤俊治審査員賞、「第18回ひとつぼ展」入選、「塩竈フォトフェスティバル」塩竈賞など。

『Planetary Photobooks』 作品一覧

Daisuke Yokota:
indication

015



Planetary Photobooks

NO. 015 横田大輔 『indication』

「1_WALL」グランプリ受賞（2010年）等で注目を浴びる若手写真家・横田大輔。「理解可能な」物事に溢れた日常の世界の中で、固定された事物の余白に人が（自分が）何を見ているのかに興味を持ち、観客の意識を投影させるものとしての「写真」を作り上げている。

横田大輔

1983年埼玉県生。2003年日本写真芸術専門学校卒業。2010年、第2回写真「1_WALL」展グランプリ。2008年「キャノン写真新世紀」佳作（大森克己選）。「エプソンカラーイメージングコンテスト」写真部門特選。

Jiro Konami:
complex and more

016



Planetary Photobooks

NO. 016 小浪次郎 『complex and more』

シュウウエムラ賞を始め数々の賞を受賞しその実力が評価される小浪次郎による作品集。

「無意識の内に自らの体内に入り込んだ情報や知識。それらを抑圧しても自分自身を形成しようとする。そういったものの集合体です。」

小浪次郎

1986年東京生。東京工芸大学芸術学部写真学科研究生課程修了。「Art Award Tokyo 2010」シュウウエムラ賞の他、受賞多数。展覧会にG/P FRONT LINE SHOW「小浪次郎個展：complex and more」（スパイラルガーデン）など。

Isamu Sakamoto:
GOTANDA Hendrix

017



Planetary Photobooks

NO. 017 阪本勇 『五反田ヘンドリックス』

パワフルで独特な写真で様々なメディアからも期待される阪本勇。音楽が鳴り響くようなユニークな作品『五反田ヘンドリックス』の連作を一冊にまとめた。

「じゃかじゃかじゃーん、と未だに脳ミソん中で響いちゅう。

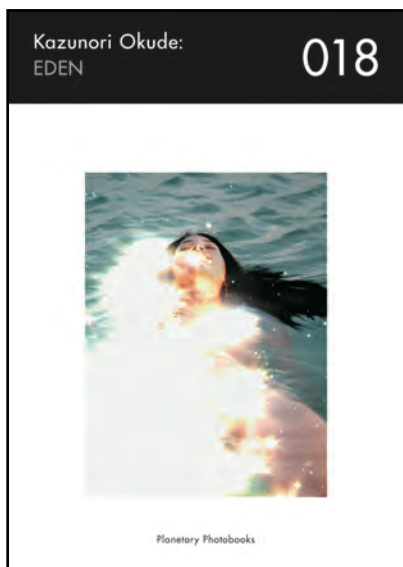
わだばジミヘンになる！

わだばジミヘンになる！」

阪本勇

1979年、6月6日生。展覧会に、「大・阪本勇写真展」（2010、海岸通ギャラリー・CASO、大阪）、「昼光ジャズ」（2010、アートセンター・オン・ゴーイング、東京）。

『Planetary Photobooks』 作品一覧



NO. 018 奥出和典 『EDEN』

第30回「ひとつぼ展」グランプリ受賞で注目を浴びる奥出和典。その独自のイメージ生成による作家性はますます注目に値する。

「不完全な肉体。不完全な心。不完全な人間。不完全な愛。不完全な理性。不完全な存在。

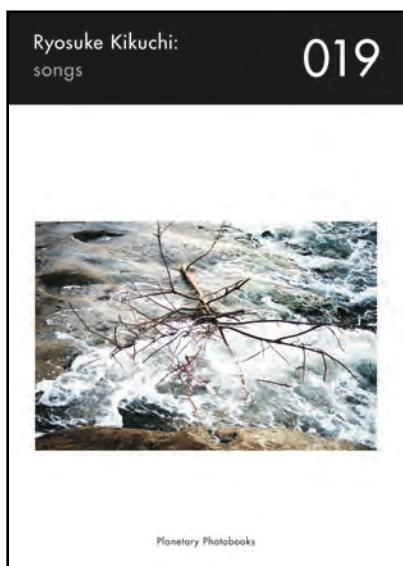
不完全な男。不完全な女。不完全な関係。不完全な恋愛。不完全な性。不完全な希望。

世界は不完全な概念メタファーに満ち満ちている。

だからこそ、この世界は美しい。」

奥出和典

1975年三重県生まれ。東京藝術大学美術学部デザイン科卒業。第30回「ひとつぼ展」グランプリ受賞。主な写真展に「KERBEROS」（ガーディアン・ガーデン）、「SEOUL PHOTO 2010」（COEX, 韓国）など。



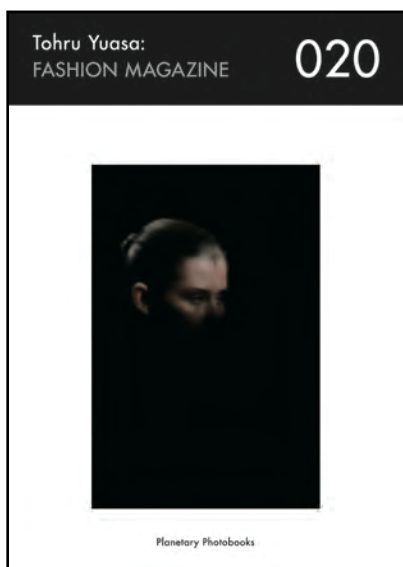
NO. 019 菊池良助 『songs』

第26回ひとつぼ展入選以降、様々な媒体等で活動を続ける菊池良助によるプライベートの記録を詩的に綴った写真集。

「僕にとって、写真とは言語の外にあるものを知覚するためのものです。写真を撮りつづけることと観ることの繰り返しの中で私と世界を理解しています。」

菊池良助

1981年栃木県生。展示に26回「ひとつぼ展」、「THE EXPOSED」（2007, Caso/Punctum）、「Secret Phantom」（2007, Magic Room?）、「Untitled/Image」（2010, Cultivate）、「Sun-Shi Ryosuke Kikuchi Photography」（2010, Vacant）。



NO. 020 湯浅亨 『Fashion Magazine』

ファッション誌を中心に活動する湯浅亨の作品は昨年TOKYO FRONTLINE PHOTO AWARDを受賞。幅広い作風と確かな実力に注目が集まる。

「しなやかにポーズするファッションモデルも、流行の靴やきらびやかなジュエリーも写ってはいない。しかしこれらの写真は、まぎれもなくぼくが遭遇した「ファッションの周辺」の記録である。「ファッション写真」とは何か、ぼくはシャッターを淡々ときりながらぼんやりと考える。」

湯浅亨

1981年福岡県生。2002年文化服装学院卒業。2006年より文化出版局写真部。TOKYO FRONTLINE AWARD受賞（2011）、PHOTO BOOKS/HUB TOKYOにて展示（2011）。

『Planetary Photobooks』 作品一覧



NO. 021 エマニュエル・ギヨー 『notes on unfinished project』

2011年まで東京を拠点として活動した作家、エマニュエル・ギヨーによる、まだ見ぬTOKYOの表情を捉えた作品『Until the sun rises』の制作過程をまとめたドキュメント。

「Until the sun risesと題された写真のインスタレーションを、様々な協力を得ながら発展させる中で交わされたEメールや意見、セレクト前の写真、ノートからの抜粋などを集めたものである。」

Emmanuel Guillaud

1970年パリ生。シンガポール国立現代美術館、School Gallery（パリ）、G/P gallery（東京）などでインスタレーション作品「Until the sun rises」を発表。その他、東京都現代美術館やフォトエスパニアなどで作品を展示。